

令和8年度全国学力学習状況調査結果概要

令和8年4月23日に全国学力学習状況調査が実施されました。本校の平均正答率は国語、算数ともに奈良県や全国とほぼ同じでした。この結果は児童の学力の全てを把握するものではなく学力の特定の一部を示しているものですが、これらを分析して成果と課題を明確にし、今後の学習活動や生活の改善にいかしていくことが重要であると考えています。以下に本校の調査結果の概要を示します。



【国語】

- ・ 問題形式では、特に記述式問題で課題が見られました。
- ・ 情報と情報の関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使う問題や比喻や反復などの表現の工夫に気づく問題、文章を読んで理解したことに基いて自分の考えをまとめる問題に課題が見られました。これらの課題は今後の授業改善につなげていきます。
- ・ 習った漢字を文章の中で正しく使うことができるかをみる問題では県や全国よりも正答率が高く、漢字の習得率が高い児童が多いことが分かりました。
- ・ アンケートでは 80～90%の児童が「国語の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ」「国語の授業の内容がよくわかる」と回答しましたが「国語の勉強が得意」と回答した児童は 61%で、「国語の勉強が好き」と回答した児童は 55%でした。各学級では児童の国語力に合わせた分かりやすい授業に努めているものの、なかなか児童の学習意欲や学力には結びついていません。今後も児童の実態に合わせた分かりやすい授業を工夫しながら基礎基本の定着につなげていけるようにします。
- ・ 学習指導要領では「国語の指導内容は系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としている」と書かれています。指導計画に基づいて国語科の学習を進めていくとともに、国語科で学習したことを他教科の学習や学校の教育活動全体の中で使う機会が持てるように、年間指導計画に意図的・計画的に位置づけることが必要であると考えます。

【算数】

- ・ 算数科においても選択式や短答式に比べて記述式の問題の正答率が低くなっていました。
- ・ 二次元の表から条件に合う数を読み取る問題は全国的に正答率が低くなっています。普



段の学習の中で、データを2つの観点から分類整理する方法を理解したり、目的に応じて二次元の表を作成したり表から必要な数値を読み取ったりできるように指導を工夫していくことが必要です。

- ・ アンケートでは「算数の勉強が得意」な児童の割合が県や全国よりも高く、「算数の勉強が好き」な児童の割合は県や全国よりも低くなっていました。
- ・ 算数の学習ではこれまでも楽しい授業・分かる授業の工夫に取り組んできましたが、今後も引き続き取組を進めていくとともに作業的・体験的な活動を工夫しながら理解を深める授業を展開していきます。また算数の授業の中で基本的な知識や技能を身につけるだけでなく、身につけた力を生活や様々な学習の場面で活用できるようにすることによって児童にとって学習が意味のあるものとなり、数学の良さを、実感を伴って味わうことができるようにしていきたいと思います。

【学習状況(学習意欲・方法・環境・生活等)】



- ・ 「自分には良いところがある」や「将来の夢や目標をもっている」に肯定的な回答をした児童の割合は県や全国の平均を上回っていました。自尊感情や自己有用感が低いことは全国的にも課題となっている事象ですが、学校生活の様々な場面で児童が自分の役割を果たし満足感や達成感を得られる機会、グループ活動の中で自他のよさを認め合いながら主体的に取り組む機会などを設け、自尊感情や自己有用感を育む取組をすすめてきた成果が表れてきていると考えます。
- ・ 「友達関係に満足している」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」と回答した児童は約96%で、多くの児童が良好な人間関係を築き充実した生活を送っているようです。
- ・ 普段の読書時間や休み時間の図書室利用がとても少なく、全体的に読書への関心が低いことが分かりました。学校図書館だけでなく地域の図書館や電子図書館の活用など様々な読書の機会を作り子どもたちの読書活動推進の取組を進めていきたいと思います。
- ・ 普段(月～金)、1日に1時間以上スマホやタブレットでSNSや動画視聴をしている児童は87.8%で全国や県の平均よりもかなり高くなっていました。
- ・ 授業でのPCやタブレットの利用率はとても高くなっていますが、PCやタブレットを使って「文章を作成する」「情報を整理する」「プレゼンテーションを作成する」ことができると回答した児童は県や全国の平均よりも低くなっていました。情報を収集するだけでなく情報発信のツールとして活用できるように指導を続けていきます。
- ・ 97.9%の児童が「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と回答しました。引き続き「いじめ防止基本方針」に沿って、いじめを許さない心の育成に努めていきます。